

薬害教育教材に関するアンケート調査結果について(概要)

1 目的

中学3年生を対象とした薬害教育教材「薬害って何だろう？」について、教材のより有効な活用方法等の検討につなげるため、教育現場における使用状況、問題点等を把握する。

2 調査対象

全国の中学校 (11,170 か所)

3 調査内容

- (1) 使用状況 (教科、使用時期)
- (2) 教材のわかりやすさ
- (3) 教材を授業で使用するに当たっての問題点や、改善が必要な点

4 調査方法

以下の手順により、事務局において調査を実施。

- ① 平成 24 年度分の教材の発送時にアンケートはがきを同梱し、中学校において必要事項を記載するよう依頼。
- ② 中学校から事務局あてに返送。

(調査票の配布：平成 24 年 3 月 23 日、返送期限：同 4 月 13 日)

5 調査結果の概要

- (1) 回収率 21.9% (2,448 か所)
- (2) 結果の概要 別紙のとおり。

調査結果の概要

(1) 調査結果一覧

	質問内容	主な結果	合計
問1	使用状況	①授業で使用した:465 (19.0%) ②配布のみ:1,696 (69.3%) ③配布していない:271 (11.1%)	2,448
	(1)教科	①社会科:181 (38.9%) ②保健体育科:223 (48.0%) ③その他:67 (14.4%) (※複数回答あり)	465
	(2)使用時期	①23年度1学期:130 (28.0%) ②23年度2学期:203 (43.7%) ③23年度3学期:95 (20.4%) ④24年度(4、5月):15 (3.2%)	465
問2	わかりやすさ	①全体にわかりやすい:1,681 (68.7%) ②わかりにくい部分がある:368 (14.6%)	2,448
	わかりにくいと思った理由 (自由記述)	「聞きなれない語句(病名)や専門用語」93件 「特別支援学校のため」49件 「中学生には難しい内容」31件 「文字が多すぎる・文章が長すぎる」24件 「情報が多すぎる」22件 ほか ※ 詳細については、(2)を参照	390
問3	問題となった点や改善が必要な点 (自由記述)	「時間に余裕がない」78件 「送付に問題」61件 「視覚効果について工夫が必要」47件 「授業の位置づけが難しい」38件 「教える側の態勢を整えることが必要」30件 ほか ※ 詳細については、(3)を参照	535

(2) わかりにくいと思った部分や、その理由

自由記述〈回答者数：390名〉

わかりにくいと思った部分やその理由	件数
聞きなれない語句(病名)や専門用語	93
特別支援学校の為	49
中学生には難しい内容	31
文字が多すぎる・文章が長すぎる	24
情報量が多すぎる	22
構成(レイアウト)が悪い	17
全体に難しい	16
イラスト・図表での説明や写真が欲しい	15
責任の所在、原因の部分が理解しにくい	15
教科書の範囲外なのでどの教科で使用したらよいか難しい	12
身近な問題でない	11
基礎知識がないので難しい	11
ポイントが明確でない	8
文字が細かすぎる	6
教える側に知識がないので難しい	4
学校独自の問題	4
その他(少数意見)	55
わかりやすい	25

(※主な記述)

➤ 聞きなれない語句(病名)や専門用語： 93 件

- ・ いろいろな病気の名前が出てくるが、具体的な説明が難しく、生徒にも理解しづらいのではと感じる。どこまで説明するのも迷うところである。
- ・ 専門用語がたくさんあり、一つ一つを説明すると時間がかかる。
- ・ 馴染みのない言葉が多いと、自分とは関係ないと感じる生徒が多い。
- ・ 関連サイトの紹介文の「ベネフィット」という薬の意味がすぐにわかる中3は少ないと思います。
- ・ 「薬害」という言葉そのものになじみがないため、DVD教材(10分ほど)などで説明があるとわかりやすくなると思う。

➤ 特別支援学校の為： 49 件

- ・ 本校は特別支援学校であり、理解分野の学習もあるが、薬害までの学習ができていない状況である。
- ・ 知的障害を有する生徒自身が理解するのは難しいと思います。保護者に対する啓発には役立つと思います。

➤ 中学生には難しい内容： 31 件

- ・ 中3に理解させるのは大変難しい。大人にとっては良い資料であるが。
- ・ 学校から社会科に担当されたが、内容が中3では難しく、時間も取ることができなかった。高1ぐらいで使うの

かどうか。

➤ **文字が多すぎる： 24 件**

- ・ 字が多すぎて、生徒に配布しただけならまず読まないだろう。内容の全てを授業で扱うのは無理。
- ・ 文字がギッシリ詰まっている段階で、生徒達には敬遠されるようです。

➤ **情報量が多すぎる： 22 件**

- ・ 情報は詳しいが、授業で紹介する内容はわずかなので、生徒がすべてを理解するには時間がかかる。
- ・ 生徒にとっては、いくつかの薬害被害についての情報が多すぎるように思います。1つをメインで紹介して、薬害について考えさせたほうがインパクトがあると考えます。
- ・ テーマが多すぎる。ジフテリア予防接種からヤコブ病まで幅広い薬害をどう説明するか。全てが重要な薬害であることは理解できるし、説明の上からもこれだけ広い範囲にわたっている重要性も認識できる。しかし、若い教員の中には実感が持てない者もいて、温度差が大きかった。リアルタイムで見ていなかった差も大きい。

➤ **構成(レイアウト)が悪い： 17 件**

- ・ 全体的にレイアウトがごちゃごちゃしていて読みづらい。読んでもらえないのではないかと心配している。自分の身にも起こる可能性がある問題として読んでもらえるようなインパクトある内容だとよいのでは。
- ・ 年表のところは説明のあるものとないものがあるので、全部にどのような症状の格差が出たのか載っている方がいい。説明は横にずれている(余白の利用)ものもあるが、見にくいので年表と説明を分けるレイアウトも一つの工夫。
- ・ 結論的な部分がはっきりわからない表記、デザインで、わかりづらいと思う。
- ・ レイアウト、イラストなどが堅苦しく、生徒達にとってとっつきにくい。

➤ **全体に難しい： 16 件**

- ・ 内容が難しい(全体的に)

➤ **イラスト・図表での説明や写真が欲しい： 15 件**

- ・ 具体的に薬が示されていない(イメージする薬の袋や写真がない)。
- ・ 年表中に薬害についての解説はあるが、文章だけではわかりにくいのではないのでしょうか。どのような症状が起こるのか、画や写真を多くしたほうが良いと思います。
- ・ 難しい内容であるので、もう少し子どもの興味を引くように、字を減らしてイラストを増やしてもよいと思いました。

➤ **責任の所在、原因の部分が理解しにくい： 15 件**

- ・ 何が原因なのかわかりにくいので、二度と起こさないための学習が不十分になる。責任の所在を。
- ・ 「どうすれば薬害が起こらない社会になるだろう?」のところで、それぞれの役割はわかるが、利害関係が見えない。仕組みを考える場合、一つ一つの立場をもっと細かくわかるようにしなければ、表面上の理解で終わってしまうと思います。
- ・ 年表でジフテリアに関しては 1979 年和解、C 型肝炎については勝訴の写真があるだけ。もっと国や製薬会社などの加害者がどう責任を取るか表記すべきではないか。

➤ **教科書の範囲外なのでどの教科で使用したらよいか難しい： 12 件**

- ・ 公民的分野のどの単元での使用が効果的で相応しいかの判断が難しい。
- ・ 教科書に載っていない薬害がたくさんあり、説明すると時間不足になりそうです。怖さだけを伝えてしまうのではないかと心配になりました。
- ・ 教師にとっては有効な資料ではあるが、生徒が学んでいく資料としては教科書の内容で十分である。
- ・ 教科書に沿った資料ではない。この教科書のこの単元で配布、と明記してほしい。

➤ **身近な問題でない： 11 件**

- ・ 違法薬物と違い、薬物は生徒一人一人の意識でどうにかなるものではなく、行政や製薬会社が対応の多くを担っているため、どうしても生徒が身近なものとして実感を持たず、意識の高揚を図りにくい。
- ・ 生徒が自分の生活とつながるイメージが持ちにくい。

➤ **基礎知識がないので難しい： 11 件**

- ・ 生徒達の知らないことが多く、薬害についての知識がほとんどないので難しいと感じた。
- ・ なぜ起こったのかの流れをしっかりと生徒に説明してからでないといけない。

➤ **ポイントが明確でない： 8 件**

- ・ 学習のポイントが具体的な視点でなく、わかりにくい。だったらどうすればよいのかわからない。
- ・ 中学生の今の時期に学習させる狙いがハッキリしていない。今何を考え、考えさせるかが明確でない。

➤ **文字が細かすぎる： 6 件**

- ・ 字が細かくて、生徒にはとっつきにくいかも…。

➤ **教える側に知識がないので難しい： 4 件**

- ・ 教師の研修時間がなく、専門的知識・理解が不十分でした。

➤ **学校独自の問題： 4 件**

- ・ 本校は学力が低いので、難読の漢字があったり、文章の理解力が低かったりしたので。

➤ **その他(少数意見)： 55 件**

- ・ サリドマイドなど、昭和の事件についてはなかなかイメージがわからない。
- ・ 良い教材だと思うが、多教科の年間指導計画がすでにできあがっているため、なかなか授業では使用できない。中学3年は進路のことでやるべきことがいっぱいなので、学校で実施している薬学講座のみで十分だと思う。
- ・ 薬物乱用防止教室の内容がたくさんあり、薬害の話までまわらない。
- ・ 「薬害とは…」という定義があれば、よりわかりやすいと思う。
- ・ 社会への批判精神を過度に助長することが懸念されるため。

➤ **わかりやすい： 25 件**

- ・ 「被害者の声」がわかりやすい。
- ・ 具体的な被害者の方々の記述があってわかりやすかったし、印象を深めることができた。

(3)教材を授業で使用する場合に、問題となる(なった)点や改善が必要な点

自由記述(回答者数:535名)

問題となる(なった)点や改善が必要な点		件数
時間に余裕がない		78
送付に問題	送られてきた時期が悪い(33)	61
	部数の不足(19)	
視覚効果について工夫が必要	イラスト・写真、図表など(21)	47
	DVDなどの映像(19)	
授業の位置づけが難しい		38
教える側の態勢を整えることが必要	指導案が必要(6)	30
教科書との関連性に問題		28
特別支援学校への工夫が必要		17
内容を簡略化が必要		14
身近な問題として捉えさせる工夫が必要		12
類似する資料が多すぎる		8
配慮の問題		6
ワークシートの活用		6
その他(少数意見) 具体的な改善案・要望など		55
問題点・改善点ではない記述	今後使用する予定がある(46)	169
	わかりやすい・良い教材・役に立った(39)	
	どのように使用したか(33)	
	使用しなかった・このような教材は不要(6)	
	B5サイズにしてほしい(2)	

(※主な記述)

➤ 時間に余裕がない: 78件

- ・ 授業で扱うとしても1時間(50分)なので、それに対応する内容でないと使用しづらい。
- ・ 2ページで1時間の指導が目安とされています。保健体育の保健学習の場合、3時間の指導時間確保は現実的に無理であると考えます。
- ・ 教科書の内容を扱うので精一杯で、時間がない。
- ・ 教科、特別活動ともに時数が限られており、割り込む時間がない。
- ・ 背景などを理解して、自分の考えを持てるようにするためには、ある程度の時間をかける必要があるが、教科書であまり扱っていない内容に時間をかける時数的な余裕があるかどうかの問題である。

➤ 送付に問題:61件

○ **送られてきた時期が悪い： 33 件/61 件中**

- ・ 年度が替わるこの時期に送られてきても困る。活用してほしいのなら時期を考えるべき。
- ・ 来年度分をこのような時期に送られても、保管場所に困るし、配るのを忘れてしまう。時期を考えてほしい。
- ・ 年度末に送付されると、引き継げないことが多々ある。新年度になってから送付してほしい。
- ・ 時期的に3月に配布したのでは遅すぎる。12月頃までにはほしい。

○ **部数の不足： 19 件/61 件中**

- ・ 教材が生徒数しかなかった。教職員の研修でも利用したいので職員数分もらえると有り難いです。
- ・ 予備が一部もない。転入生（震災関係、他）などがいると配布できない。学級担任分がない。

○ **その他**

- ・ 担任なのか、教科担任なのか、養護教諭なのか、担当者をはっきりさせて送ってもらいと、アンケートにも答えやすい。
- ・ 一方的にリーフレットを送付する前に、必要かどうか聞いてほしい。

➤ **視覚効果について工夫が必要： 47 件**

○ **イラスト・写真、図表など： 21 件/47 件中**

- ・ もう少しイラスト等を多用し、中学生の興味関心を引きやすいものに改善すると良い。
- ・ 中学生でもイラスト（マンガ）を多く使った方がわかりやすい。
- ・ 葉害によって生じる病気等がどんな症状なのかを具体的に示すイラスト等がほしいと思った。生徒は文字のみではイメージをしにくいいため。
- ・ 実際の肺や肝臓などの写真があると、更にわかりやすくなると思います。

○ **DVD などの映像： 19 件/47 件中**

- ・ DVD 化で視覚的に資料化してもらえると、また有効です。
- ・ 短学活で使用したが、DVD のようなビジュアル的なものを学校へ一枚配布したほうが効果的であると思う。

➤ **授業の位置づけが難しい： 38 件**

- ・ 学習指導要領に位置付けがないこと。
- ・ どの単元での学習を望まれているのか、指導要領のどの項目の内容に合致しているのか明記していただければありがたい。
- ・ どの単元でどのように教えるのかが指導者側の課題となります。
- ・ 公民分野の中にどのように組み入れてよいか、具体的な活用法がわかりません。
- ・ 中3の公民では「消費者保護」の観点で扱うことになり、「人権」については直接的なつながりはないと思われます。とすれば、「葉害」そのものについて追究する授業は、社会科では行いにくいと感じました。
- ・ 社会科よりも保健体育科で扱ったほうが有効だと思います。社会科の授業の中では入れにくいです。

➤ **教える側の態勢を整えることが必要： 30 件**

○ **指導案が必要： 6 件/30 件中**

- ・ 簡単な指導案がついていると、担任も話をしやすくなる。
- ・ 教師用解説書か DVD などがあれば伝えやすい。

○ その他

- ・ 道徳などでこれに基づいて講師を招いて講演をしようと計画したが、適切な人が見当たらないので断念（教師の指導では説得力を欠くので）。
 - ・ 年々、教師がおいつけないほど薬物については進んでいるので、教える側の研修の必要性を感じます。
 - ・ できれば講師がいると良い。
 - ・ 薬＝こわいと感じ、適切に使用されるべきところを自己の判断で勝手に使用をやめてしまい、被害が大きくなってしまおうということにならない指導が必要と思う。
- **教科書との関連性に問題： 28 件**
- ・ 教科書等の内容と関連させて指導するため、どの分野と関連させたらよいなどの使用例を示していただくと、より効果的だと思います。
 - ・ 教科書との関連がより明瞭だと、どこでどう取り組むかの見通しも持てます。
 - ・ 授業時数の確保が難しいなか、教科書（保健分野の）の単元のない内容を扱うのが難しい。
 - ・ 教科書の副教材としては少し内容の幅が広いので使用する内容が少なくなってしまう。
- **特別支援学校への工夫が必要： 17 件**
- ・ 病弱な生徒は授業が欠かせない場合が多く、本教材を扱うことで不安をあおることもあるために慎重になった。特別支援学校に通う生徒へは、取り組みの是非が難しい。
 - ・ 知的障害のある生徒にも理解できるものを作っていただければ活用できるのですが。
- **内容の簡略化が必要： 14 件**
- ・ 情報量が多いので内容を絞り、冊子ではなくパンフレットやチラシのような形式でよい。
 - ・ 平易な表現、学習者の視点に立った内容構成にしなければ、活用はされにくいと感じます。
- **身近な問題として捉えさせる工夫が必要： 12 件**
- ・ 興味の対象が自分達であり、このような悲劇があったことを説明しても、興味を持たないことが多い。
 - ・ 生徒自身がもう少し身近に考えられるような資料となれば助かります。
- **類似する資料が多すぎる： 8 件**
- ・ 薬害に限らずさまざまなパンフレットが送られてくるが、消化しきれず配布するのみになっている。
 - ・ 分野が異なる同じようなものが年間 50 以上来ています。
- **配慮の問題： 6 件**
- ・ 健康上、不安のある生徒への配慮。
 - ・ 保護者配布とし、家庭での理解啓発資料とした。苦情はないが、児童・生徒の実態にあっていないと感じている保護者が多い。
 - ・ 生徒の保護者などが実際に薬害の被害者などになっているのかなど、事前に調査するのが不可能である。
 - ・ 年間の人権学習計画に入っていないので、配布できませんでした。配布のみだと差別意識につながりそうだという判断のため、配布しませんでした。

➤ **ワークシートの活用： 6 件**

- ・ 教材として使用できるものにするには、ワークシートのように記入できる部分もあると良い。
- ・ 学習のポイントという項目がいくつかありますが、ワークシート形式など、実際に記入できる欄があり、鉛筆でも記入しやすい紙質だと便利です。

➤ **その他(少数意見) 具体的な改善案・要望など： 55 件**

- ・ 情報量が多いと焦点化されないので、サリドマイドと薬害エイズ（血液製剤）に絞ってみてはどうでしょうか。
- ・ 薬害の事例をもとに新聞の切り抜きなどがあると、社会科の授業でも活用しやすいのでは。
- ・ クイズを取り入れれば、子どもも興味を増す。
- ・ もう少し裁判の様子（概略）など、国の対応について示されていけばよいのでは。
- ・ 物語のような形式も良いと思います。
- ・ 客観的な記述を心掛けられているのだと思いますが、例えば心情に訴える道徳的資料にするか、詳しい経緯を書いた社会的資料にするか、どちらかにしたほうが良いかなと思います。
- ・ もっと薬害による被害者の差別問題に関して、重点的に取り上げると良い。
- ・ 薬害について、厚生労働省はどのような取り組みをしているのか。この資料をどのような願いを持って作っているのかも書いてあると良いと思う。
- ・ 国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる視点をさらに取り入れてほしい。
- ・ どのような被害を生むのか、その有様をよくわかるような資料を載せてほしい。また、どのような経緯をもって被害者になってしまったのか、その後どのように人権を回復していったのか、資料としてふさわしいものと考えてほしいです。
- ・ まず「薬と私達」みたいなコーナーを設けてほしい。大人ならよいが、中学生向けには難し過ぎるので、中学生が興味を示さない。
- ・ 今は脱法ハーブのことや予防接種と食品の組み合わせの授業も入っているので、その内容もプラスしていただけるとありがたいです。

➤ **問題点や改善点ではない記述： 169 件**

○ **今後使用する予定がある： 46 件/169 件中**

- ・ 授業として使う前に配布してしまったので深めることができませんでした。今年は計画的に教材として活用させていただきたいと思います。
- ・ 保健関係（性感染症）の講演を6月頃行います。その時の資料として配付したいと思います。医師にも連絡して活用したいと思います。
- ・ 社会の授業でふれてもらう予定。ハンセン病ともども、知識として伝えたい。

○ **わかりやすい・良い教材・役に立った： 39 件/169 件中**

- ・ 学習のポイントがあって、非常に使いやすい（生徒にとって）。
- ・ 保健体育の授業でも行い、その後、特活の授業で薬物乱用防止教室も行い、より詳しく専門職員の論話につなげたのはよかったです。
- ・ 被害者の声や薬害の歴史、理由が詳しく書かれていて、生徒が薬害について学びやすい教材であると感じました。
- ・ このような資料は補助資料として活用でき、大変有益です。ありがとうございます。

○ **どのように使用したか： 33 件/169 件中**

- ・ 中3LHR で学年全体として薬害問題を学びます。ホールで警察の方の説明も受けます。その準備用教材として配布しました。
- ・ 本校では2年生で薬物乱用防止教室を外部講師を招き実施。その時の資料として使用。
- ・ 基本的人権の「救済を求める権利（請求権）」での導入で活用させていただきました。薬害エイズ裁判など生徒の関心が高い。
- ・ 公民の「新しい人権」のまとめとして授業中に読ませました。世の中のことを知るという意味で、大変良いと思います。
- ・ 保健授業の薬物のところで補助教材として使用しました。
- ・ 薬害エイズ、ハンセン病、人権などを関係づけて、学活時に配布して、担任が指導した。
- ・ 薬物乱用防止教育の一環として指導の終わりに配布しました。

○ 使用しなかった・このような教材は不要： 6件/169件中

- ・ 別資料を使い、地元警察生活安全課の指導を受けたため、特に必要としませんでした。
- ・ これをあえて全国的に配布するのは、今の財政状況を考えるならば中止すべきと思われる。

○ B5サイズにしてほしい： 2件/169件中

- ・ 生徒がノートとして使用しているB5サイズであれば活用しやすい。

○ その他

- ・ 生徒自身を読むか、家庭へ持ち帰り、家族も見るかは非常に疑問です。
- ・ 被害者の声を知ること、生徒の興味・関心が高まり、効果があると感じています。